

# 国立国会図書館 調査及び立法考査局

Research and Legislative Reference Bureau  
National Diet Library

論題 Title	標題紙、はしがき、目次、プログラム、奥付
他言語論題 Title in other language	Foreword / Contents
著者 / 所属 Author(s)	松浦茂 (MATSUURA Shigeru) / 国立国会図書館調査及び立法考査局長
書名 Title of Book	AI と社会のこれからを考える
シリーズ Series	調査資料 2024-4 (Research Materials 2024-4)
編集 Editor	国立国会図書館 調査及び立法考査局
発行 Publisher	国立国会図書館
刊行日 Issue Date	2025-3-18
ページ Pages	—
ISBN	978-4-87582-937-9
本文の言語 Language	日本語 (Japanese)
摘要 Abstract	—

\* この記事は、調査及び立法考査局内において、国政審議に係る有用性、記述の中立性、客観性及び正確性、論旨の明晰（めいせき）性等の観点からの審査を経たものです。

\* 本文中の意見にわたる部分は、筆者の個人的見解です。

科学技術に関する調査プロジェクト2024報告書

# AIと社会のこれからを考える

2025年3月



国立国会図書館  
調査及び立法考査局

科学技術に関する調査プロジェクト 2024 報告書

# AIと社会のこれからを考える



2025年3月

国立国会図書館  
調査及び立法考査局

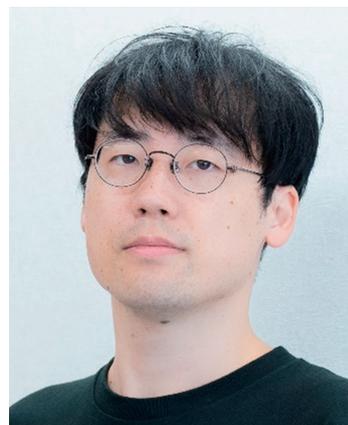
- \* 本報告書は、国政審議の参考に供するために取りまとめたものです。
- \* 本報告書の記事は、調査及び立法考査局内において、国政審議に係る有用性、記述の中立性、客観性及び正確性、論旨の明晰<sup>めいせき</sup>性等の観点からの審査を経たものです。
- \* 本報告書の記事のうち、意見にわたる部分は筆者の個人的見解です。
- \* 本報告書の記事を全文又は長文にわたり抜粋して転載する場合には、事前に調査及び立法考査局調査企画課（bureau@ndl.go.jp）に御連絡ください。



ファシリテータ 小塚 荘一郎氏



パネリスト 荒瀬 由紀氏



パネリスト 久保田 瞬氏



パネリスト 吉永 京子氏



パネリスト 落合 孝文氏

# はしがき

国立国会図書館の「科学技術に関する調査プロジェクト」は、科学技術政策に関する国会向け調査サービスの一層の充実を図るため、平成 22（2010）年度から調査及び立法考査局において実施しているものです。国会における議論のよりどころとなる正確かつ客観的な情報の提供を目指し、科学技術が関係する各分野の重要な国政課題の中から毎年度選定した特定のテーマについて、外部の学識経験者の方々と連携して調査・分析を行い、その成果を報告書にまとめています。

令和 6（2024）年度のプロジェクトでは、「海洋をめぐる動向と課題」、「フードテック―「食」を変える先端技術の課題と可能性―」及び「AI と社会のこれからを考える」の三つのテーマについて調査を実施しました。

このうち「AI と社会のこれからを考える」については、令和 6 年 11 月 15 日にオンラインでシンポジウムを開催しました。前年度の当館調査「デジタル時代の技術と社会」の成果、「広島 AI プロセス」の進展、令和 6 年 4 月に総務省と経済産業省が取りまとめた「AI 事業者ガイドライン」、AI を用いた様々なサービスの利活用に関する状況等を踏まえ、AI が社会にもたらす影響と課題について、有識者による議論を通じて展望しました。本報告書は、このシンポジウムの記録集です。

シンポジウムでは、小塚荘一郎氏による問題提起の後、議論の前提として、大規模言語モデル（LLM）について荒瀬由紀氏、XR・メタバースについて久保田瞬氏、AI の倫理・法・社会的課題（ELSI）と諸外国の AI 規制の動向について吉永京子氏、AI 産業の振興について落合孝文氏から、それぞれ現状と課題を報告していただきました。その後、小塚氏をファシリテーターとして、参加者からの質問への応答も交えつつ、AI 活用のリスクと便益、AI がグローバルな文脈にもたらす影響、AI によって変わるものと変わらないものを議論の主軸として、パネルディスカッションを行いました。本報告書では、4 名のパネリストの報告とパネルディスカッションの記録に加えて、小塚氏による解説を掲載しています。

本報告書が、国会議員の皆様の調査研究や関連分野に関する国政審議に資するとともに、この問題に関心を寄せる方々に広く活用されることを心から願っております。

令和 7 年 3 月

国立国会図書館 調査及び立法考査局長 松浦 茂

# AI と社会のこれからを考える

## 目 次

---

はしがき	松浦 茂	
プログラム		1
開会挨拶・趣旨説明	ローラー ミカ	
プレゼンテーション資料		3
報告		7
<b>第Ⅰ部 問題提起・パネリスト報告</b>		
【問題提起】	小塚 荘一郎	
プレゼンテーション資料		9
報告		13
【パネリスト報告 1】		
大規模言語モデル（LLM）の光と影	荒瀬 由紀	
プレゼンテーション資料		15
報告		25
【パネリスト報告 2】		
XR・メタバース最前線		
—現実とデジタルが融け合う空間コンピューティング時代へ—		
.....	久保田 瞬	
プレゼンテーション資料		29
報告		35
【パネリスト報告 3】		
AI 技術と社会—倫理・法・社会的課題（ELSI）と諸外国の AI 規制の動向—		
.....	吉永 京子	
プレゼンテーション資料		41
報告		57
【パネリスト報告 4】		
AI 産業の振興	落合 孝文	
プレゼンテーション資料		63
報告		83
<b>第Ⅱ部 パネルディスカッション</b>		
.....		89
<b>解説</b>		
「AI と社会のこれから」について何を考えるべきなのか	小塚 荘一郎	103

# AI and Society in Perspective

## Contents

---

Foreword	MATSUURA Shigeru	
Program		1
Opening and Aim of the Symposium	LAWLER Mika	
Presentation		3
Transcript		7
<b>Part I Problem Presentation and Presentations by the Panelists</b>		
Problem Presentation	KOZUKA Souichirou	
Presentation		9
Transcript		13
Large Language Models (LLMs): Promises and Pitfalls	ARASE Yuki	
Presentation		15
Transcript		25
Frontiers of XR and the Metaverse:		
Toward an Era of Spatial Computing Fusing Reality and Digital	KUBOTA Shun	
Presentation		29
Transcript		35
AI Technology and Society:		
Ethical, Legal, and Social Issues (ELSI) and Global Trends in AI Regulation		
	YOSHINAGA Kyoko	
Presentation		41
Transcript		57
Promoting the AI Industry	OCHIAI Takafumi	
Presentation		63
Transcript		83
<b>Part II Panel Discussion</b>		
Transcript		89
<b>Commentary</b>		
Unpacking “AI and Society in Perspective”: Key Issues and Considerations		
	KOZUKA Souichirou	103

# 科学技術に関する調査プロジェクト 2024 シンポジウム

## AI と社会のこれからを考える

日時： 令和6年11月15日（金） 14:00～17:00

形式： Web 会議システムによるリモート開催

主催： 国立国会図書館 調査及び立法考査局

### プログラム

開会挨拶・趣旨説明（ローラーミカ）

問題提起（小塚荘一郎）

パネリスト報告

【パネリスト報告1】大規模言語モデル（LLM）の光と影（荒瀬由紀）

【パネリスト報告2】XR・メタバース最前線—現実とデジタルが融合合う空間コンピューティング時代へ—（久保田瞬）

【パネリスト報告3】AI技術と社会—倫理・法・社会的課題（ELSI）と諸外国のAI規制の動向—（吉永京子）

【パネリスト報告4】AI産業の振興（落合孝文）

パネルディスカッション

### ファシリテータ

小塚 荘一郎（学習院大学法学部教授・国立国会図書館客員調査員）

千葉大学法経学部助教授、上智大学法科大学院教授等を経て、2010年から現職。博士（法学）。総務省「AIネットワーク社会推進会議」構成員、総務省「安心・安全なメタバースの実現に関する研究会」座長。専門は商法、会社法、科学技術と法。

関連著作：『AIの時代と法』（岩波書店、2019年）、「AI時代の法と規範」『生成AI時代の教養—技術と未来への21の問い—』（共著、風濤社、2024年）、「AIを用いたリーガルテックと契約法務」『学習院大学法学会雑誌』（学習院大学法学会、2023年9月）、「講演 メタバースとアバターの法的課題」『成蹊法学』（成蹊大学法学会、2023年）

### パネリスト

荒瀬 由紀（東京科学大学情報理工学院教授）

大阪大学大学院情報科学研究科准教授等を経て、2024年から現職。博士（情報科学）。

専門は自然言語処理。言語処理学会理事、Executive committee member of Association of Computational Linguistics, Asian Federation of Natural Language Processing。

関連著作：『自然言語処理の基礎』（共著、オーム社、2022年）、「Self-Ensemble: 語彙制約を用いた複数出力候補の統合」『自然言語処理』（共著、言語処理学会、2024年6月）、「対話における間接的応答と直接的応答からなる言い換えコーパスの構築と分析」『自然言語処理』（共著、言語処理学会、2022年3月）

久保田 瞬（一般社団法人XRコンソーシアム事務局長）

一般社団法人VRMコンソーシアム理事、株式会社Mogura代表取締役、「Mogura VR」編集長、XRジャーナリスト

慶應義塾大学法学部政治学科卒業後、環境省入省。2015年にVRやAR、メタバースの専

門メディア「Mogura VR」を立ち上げ、株式会社 Mogura を創業。この分野が社会を変えていく無限の可能性に魅了され、それを広げる事業を展開している。XR / メタバースの動向分析、コンサルティングが専門。現在は子育てをしながら事業推進に、講演にと奮闘中。

関連著作：『メタバース未来戦略—現実と仮想世界が融け合うビジネスの羅針盤—』（共著、日経 BP、2022 年）

吉永 京子（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任准教授）

三菱総合研究所（2010-11 年は Yale ISP Visiting Fellow）を経て、2023 年 10 月から現職。修士（法学）。ジョージタウン大学ロースクールテクノロジー法・政策研究所ノンレジデントフェロー、東京大学 IFI 客員研究員、OECD GPAI 専門家委員。経済産業省「AI 事業者ガイドライン検討会」委員。専門は情報法、情報通信・セキュリティ政策、AI のガバナンス、法と倫理。

関連著作：『責任ある AI とルール』（共著、金融財政事情研究会、2024 年）、「教育現場における生成 AI の活用—米国ロースクールにおける生成 AI の取り組みの紹介と法学教育における生成 AI 利活用に関する一考察—（特集／生成 AI の法的課題と実務）」有斐閣 Online（2024 年 1 月 29 日）、「米国におけるプロファイリング関連制度」『AI プロファイリングの法律問題—AI 時代の個人情報・プライバシー—』（商事法務、2023 年）

落合 孝文（渥美坂井法律事務所・外国法共同事業 プロトタイプ政策研究所所長、  
弁護士（第二東京弁護士会所属））

2006 年弁護士登録（第二東京弁護士会）。森・濱田松本法律事務所を経て、2015 年から現職。内閣府規制改革推進会議委員（スタートアップ DXGX WG 座長、公共 WG 委員）（2019 年 12 月から専門委員、2023 年 10 月から現職）、デジタル庁、経済産業省及び国土交通省「AI 時代における自動運転車の社会的ルールの在り方検討サブワーキンググループ」構成員（2023 年 12 月から）、総務省 AI ネットワーク社会推進会議ガバナンス検討会委員（2020 年 11 月から）、スマートガバナンス株式会社代表取締役共同創業者。

関連著作：「巨大 IT 新法の論点 公取委、「宿題」はセキュリティー対策」NIKKEI Digital Governance（2024 年 5 月 14 日）、「金融サービスのデジタル化におけるルール形成の課題」『デジタル化社会の進展と法のデザイン』（商事法務、2023 年）、「スタートアップ支援を取り巻く現状と今後の展望」『法律のひろば』（ぎょうせい、2023 年 12 月）

※ 本報告書の編集作業は、国立国会図書館調査及び立法考査局調査企画課及び文教科学技術課科学技術室が担当した。

調査資料 2024-4  
科学技術に関する調査プロジェクト 2024 報告書  
AI と社会のこれからを考える

令和 7 年 3 月 18 日発行  
ISBN 978-4-87582-937-9

編集 国立国会図書館調査及び立法考査局  
発行 国立国会図書館

〒 100-8924 東京都千代田区永田町 1 丁目 10 番 1 号  
電話 03 (3581) 2331  
E-mail [bureau@ndl.go.jp](mailto:bureau@ndl.go.jp)

Science and Technology Research Project 2024

# AI and Society in Perspective

QR コードから、国立国会図書館  
調査及び立法考査局が刊行した、  
科学技術に関する調査プロジェクト  
の報告書にアクセスできます。



Research and Legislative Reference Bureau  
National Diet Library  
Tokyo 100-8924, Japan E-mail : bureau@ndl.go.jp

リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。